| 授業科目 | スクールソーシャルワーク論 | | | | | 実務家教員担当科目 | - |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 単位 | 2 | 履修 | 選択 | 開講年次 | 4 | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 高口　恵美 | | | | | | |
| 授業概要 | いじめ、不登校、非行など、子どもの表出する行動課題の背景には、友人関係、学校、家庭、地域など様々な環境要因が複雑に絡まり合い影響していると考えられる。<br>そこで本講義では、子ども達のおかれている環境や社会的背景について理解を深める。また、具体的事例を用いて学校で行うソーシャルワークの実際について解説し、教育と福祉や地域の連携について考察します。 | | | | | | |
| 授業形態 | 講義 | | | 授業方法 | PLB、ディスカッション、グループワーク | | |

| 学生が達成すべき行動目標 | |
|---|---|
| 標準的レベル | ・スクールソーシャルワーカーの専門性や価値・知識・技術について理解する。<br>・スクールソーシャルワーカーの歴史と発展の過程、その背景について理解する。<br>・学校におけるソーシャルワーク実践の基本について考察する。<br>・学校や関係機関の機能を理解し連携について考察する。 |
| 理想的レベル | ・スクールソーシャルワーカーの専門性や価値・知識・技術について理解し、説明することが出来る。<br>・スクールソーシャルワーカーの歴史と発展の過程、その背景について理解し、説明することが出来る。<br>・学校におけるソーシャルワーク実践の基本について考察し、考えを述べることが出来る。<br>・学校や関係機関の機能を理解し連携について考察し、考えを述べることが出来る。 |

評価方法・評価割合

| 評価方法 | 評価割合（数値） | 備考 |
|---|---|---|
| 試験 | | |
| 小テスト | | |
| レポート | | |
| 発表（口頭、プレゼンテーション） | 80% | |
| レポート外の提出物 | 10% | |
| その他 | 10% | |

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

| DP1 | ○ | DP2 | ○ | DP3 | ○ | DP4 | - | DP5 | - | ナンバリング | WE31222J |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| 学習課題（予習・復習） | 1 回の学習目安（時間） |
|---|---|
| テーマに合わせた調べ学習 | 4 |

授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション、スクールソーシャルワーカーに必要な知識 |
| 第 2 回 | 学校とソーシャルワークの視点（社会的背景） |
| 第 3 回 | スクールソーシャルワークと専門性（価値・知識・技術） |
| 第 4 回 | 子どもや家庭の社会資源と学校の関係① |
| 第 5 回 | 子どもや家庭の社会資源と学校の関係② |
| 第 6 回 | スクールソーシャルワーカーの活用と学校体制の準備① |

| | |
|---|---|
| 第 7 回 | スクールソーシャルワーカーの活用と学校体制の準備② |
| 第 8 回 | スクールソーシャルワーカーの援助プロセス① |
| 第 9 回 | スクールソーシャルワーカーの援助プロセス② |
| 第 10 回 | 事例で考えるスクールソーシャルワーカーの支援① |
| 第 11 回 | 事例で考えるスクールソーシャルワーカーの支援② |
| 第 12 回 | 事例で考えるスクールソーシャルワーカーの支援③ |
| 第 13 回 | 事例で考えるスクールソーシャルワーカーの支援④ |
| 第 14 回 | 事例で考えるスクールソーシャルワーカーの支援⑤ |
| 第 15 回 | まとめ・ディスカッション |
| テキスト | プリントを配布します |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | スクールソーシャルワーク実践スタンダード　明石出版<br>スクールソーシャルワーカーのしごと　中央法規<br>スクールソーシャルワーカー実践事例集　中央法規<br>スクールソーシャルワーカー実務テキスト　学事出版；新版 |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 課題に対するフィードバックは基本的に授業内に口頭で行います<br>必要に応じて資料などを配布いたします |
| 学生へのメッセージ・コメント | 学校教育における課題や問題など、ニュースや新聞を通して情報収集してみましょう。 |